深谷市社会教育委員会議からの提言

深谷市における地域が住民を守り・育てる取組について

令和２年６月

深谷市社会教育委員会議

目　　次

Ⅰ　はじめに　……　Ｐ１

Ⅱ　子供グループ　……　Ｐ２
～子供を守り・育てる取組について～
１　はじめに
２　子供を守り育てようとする公的な活動をしている団体等
３　地域における子供を守る取組について
４　子供を育てる取組、市民会議が推進する「３つの運動」について
５　深谷市教育委員会の取組について
６　子供を育てる取組の「３つの運動」と「６つの誓い」について
７　おわりに

Ⅲ　高齢者グループ　……　Ｐ８
～高齢者を守り・高齢者が生きがいを感じられる取組について～
１　はじめに
２　深谷市における高齢者を取り巻く状況
３　深谷市の公民館と高齢者対象事業
４　行政と市民（高齢者）との協働で取り組んでいる活動
５　高齢者の生きがい
６　高齢者にとっての生きがいを高めるために
７　おわりに

Ⅳ　おわりに　……　Ｐ１４

参考資料　……　Ｐ１５

Ⅰ　はじめに

深谷市（以下「本市」）社会教育委員会議は、平成１９年３月に、「これからの生涯学習・社会教育の推進に向けて」の意見交換を行っている。平成２１年８月には、「深谷市の社会教育の発展に向けて」のテーマの元、前述の意見交換での意見を基に分類された３つの課題別グループによる調査・研究を行い、初めて本市教育委員会に提言書を提出した。以降、平成３０年まで、５つの提言（資料１「深谷市社会教育委員会議によるこれまでの提言等」を参照）を提出している。

これらの提言は、いずれも、自発的に「動く社会教育委員」の共通認識の下、本市社会教育における現状と課題及び今後の対応や解決策に関する調査・研究をまとめたもので、本市における社会教育推進の指針になってきたといえる。

このような中で、本市社会教育委員会議は、この度、近年における社会教育の現状と喫緊の課題について５回の議論を重ねた後、これまでの取組を踏まえ、「深谷市における地域が住民を守り・育てる取組について」をメインテーマに調査・研究を行うとともに、提言することにより、本市社会教育の一層の発展に寄与したいと考えた。

調査・研究については、１９名の社会教育委員が、「子供グループ」・「高齢者グループ」の２つの課題別グループのいずれかに所属し（資料２「深谷市社会教育委員名簿」参照）、各グループがそれぞれ「子供を守り・育てる取組について」、「高齢者を守り・高齢者が生きがいを感じられる取組について」をサブテーマに定め、平成３０年７月より令和２年２月までの間、計１３回の会議を開催し、以下に示すように調査・研究に取り組んできた。

それぞれの調査・研究及び提言が、本市社会教育における今後の取組に対する認識をさらに深めるとともに、一層の発展に寄与することを願うものである。

Ⅱ　子供グループ

～子供を守り・育てる取組について～

１　はじめに

地域のコミュニティの希薄化が進み、地域で子供が育つ環境は薄れている。また、子供たちを取り巻く社会状況では痛ましい事件や事故が発生し、子供たちの安全・安心な環境も崩れている。このような社会状況の中で、私たち大人は子供たちに何ができるのであろうか。また、何をしなければならないのであろうか。

深谷市では、第２期深谷市教育振興基本計画が平成３０年４月より実施された。第２期深谷市教育振興基本計画の（２）計画の位置付けにおいて「本計画は、深谷市総合計画前期基本計画の下位の個別計画に位置付け、教育分野における教育委員会が定める計画においては最上位に位置付けます。」とされている。この基本計画の「２　教育を取り巻く社会の動向の（６）　地域コミュニティの変容」において「・・地域コミュニティの希薄化が進んでいます。・・こうした状況を踏まえ、家庭・地域・学校が連携・協働することで、だれもが地域コミュニティとの関わりをもち、地域が人を育て、人が地域をつくる好循環を生み出していくことが求められています。」とある。そして、「４　深谷市が目指す教育の姿」の「（２）基本方針」において「支え合い」として「学校と地域の連携・協働を推進し、地域社会で子供を育てる体制の構築を目指します。また、市民と行政など多様な主体が地域行事等で協働していくことで、地方創生の核となる地域コミュニティの充実を図ります。さらに、一人一人が多様な個性や能力を発揮し、新たな価値を創造したり、互いの強みを生かして支え合う、多様性に富んだ社会を目指します。」とある。

私たち社会教育委員は、社会教育法第１７条の３「市町村の社会教育委員は、当該市町村の教育委員会から委嘱を受けた青少年教育に関する特定の事項について、社会教育関係団体、社会教育指導者その他関係者に対し、助言と指導を与えることができる。」とある。そこで、今回「子供グループ」では、深谷市教育委員会策定の第２期深谷市教育振興基本計画に基づき「子供を守り育てる取組について」考察し、より良い取組について提言するものである。

２　子供を守り育てようとする公的な活動をしている団体等

子供を守り育てようとしている公的な活動をしている団体等にはどのようなものがあるか。深谷市内で活動する団体等の一部であるが、以下のような団体がある。

＊深谷市子どもサポート市民会議（以下「市民会議」とする。）　＊深谷市青少年健全育成会　＊深谷市民生委員・児童委員協議会　＊深谷市立幼稚園ＰＴＡ連合会　＊深谷市ＰＴＡ連合会　＊深谷市スポーツ少年団　＊深谷市保健センター　＊深谷市教育委員会

＊深谷市立教育研究所　＊子育て支援センター ＊学校運営協議会　＊スクールガードリーダー　＊青色防犯パトロール ＊交通指導員　＊児童相談所　＊要保護児童対策地域協議会

このような様々な機関や組織そして個人が、子供たちの安全・安心そして健全育成を願い活動をしている。本当に多くの組織や市民が様々な活動を行っていることが伺える。

これらの組織の中でも市民会議は「次代を担う青少年が、心身ともに、たくましく健やかに成長することは、私たち市民の共通の願いであるとともに、青少年を取り巻く地域社会全体の責務である。」という理念のもとに活動しており、６７の団体が加盟している大きな組織である。

３　地域における子供を守る取組について

第２期深谷市教育振興基本計画の基本目標Ⅲでは地域に信頼される学校の推進のⅢ―３子供たちの安全・安心の確保において、現状と課題を「登下校時や校内における事件、事故、災害から児童生徒を守るため、学校は安全の確保に努めるとともに、様々な場面を想定し、児童生徒に危機対応能力の基礎を培うことが求められています。・・・」とし、施策の方向性として「○児童生徒の防犯や交通安全について、地域や関係機関と連携し、地域ぐるみの学校安全体制の整備を推進します。」とある。

就学前の幼児については、保育園や幼稚園の送り迎えは保護者等が行っている。しかし、小中学校の児童生徒は少子化等にも伴い登下校時に数人のグループから枝分かれして一人で登下校する通学路・時間帯がある。その通学路・時間帯について各学校や学校応援団等の地域の子ども見守り隊も苦慮しているところである。しかし、そのような中でも明戸地区などは「朝の学校さんぽ」等を行い積極的に児童生徒の安全を見守っている。また、大寄小学校では学校運営協議会が中心となり３のつく日を「お迎えさんぽ」として、地域の方々が学校まで行き児童と共に下校するなどの運動を行っている。これらの子供を守る取組は、施策の方向性に合った活動といえる。

４　子供を育てる取組、市民会議が推進する「３つの運動」について

「次代を担う青少年が、心身ともに、たくましく健やかに成長することは、私たち市民の共通の願いであるとともに、青少年を取り巻く地域社会全体の責務である。」という理念を具現化するために市民会議では、「３つの運動」として市民に呼びかけ継続して推進している。内容は以下のとおりである。

（１）「脱いだ靴を揃える運動」（昭和６０年５月２３日より行っている。）

ア　制定の経緯（抜粋）

「・・今日の青少年の実態は、非行等問題行動の激増期となり、その内容も低年齢化、集団化、女子非行の増加等が顕著で、大きな社会問題となっております。この背景には、物の豊かさの中で心の貧しさが進むとともに、世の中も青少年

にとって望ましくない環境がうまれてきたことが考えられます。このような状況においては、子どもの人間形成の基盤となる家庭が、子どもにとって温かく安心できる場であるとともに、しつけ等十分その教育機能を果たすことが望まれます。」

イ　運動の目的・・けじめのこころを育てる。

ウ　運動の方針・・家庭では、玄関に脱いだ靴を揃えましょう。学校では、下足箱に脱いだ靴を揃えましょう。地域の会合では、脱いだ靴を揃えましょう。

（２）「あいさつ先手運動」（平成４年５月２９日より行っている。）

ア　制定の経緯（抜粋）

「・・先に制定した『脱いだ靴を揃える運動』と並行する『あいさつ』の実践を通して、やさしさと思いやりの心を育て、心豊かなふれあいの場を作るために、この運動を展開します。」

イ　運動の目的・・心豊かな明るい家庭、学校、職場及び地域づくり。

ウ　運動の方法・・あいさつは、人より先に。

（３）「ことばを大切にしよう運動」（平成１２年６月２８日より行っている。）

ア　制定の経緯（抜粋）

「例えば、いじめ、暴力、不登校等さまざまな問題行動等をひきおこしている、今日の子どもたちの「心の抑圧」を一刻も早く軽減することは、私たち大人に緊急の責務です。人の行為は、心の表れといえます。心の内を伝える手段として、『はじめにことばありき・・・・』『ことば』があり、ことばによりお互いを理解し、望ましい人間的成長と、人間関係が形成されるものと考えます。・・・子供の人格形成の基盤である家庭における親子の会話、両親の対話が大きな影響を持つことは言うまでもありませんが、子どもを取り巻く社会もことばの大切さを配慮していくことは大切なことです。子どもたちは、大人や友人たちとの会話や短絡的な言動・会話不足などで負担を感じたり、傷付いたりし、時には心を不安定なものとなっていくものと思われます。このような状況下で、今、青少年の命の大切さが訴えられ、豊かな心を持った児童生徒の育成が求められています。<u>この課題に応えるため、ことばの持つ意味、ことばの与える影響を熟慮し、心を温めることばをかけ、子どもの心を癒し、勇気づけ、人間的成長を目指し、深谷市民の総力を挙げて『ことばをたいせつにしよう運動』を展開します</u>。」　※下線　深谷市社会教育委員

５　深谷市教育委員会の取組について

第２期深谷市教育振興基本計画ではⅡ―１まごころと思いやりを育む教育の推進において現状と課題を「社会の急激な変化に伴い、子供たちの規範意識や自己肯定感の不足

などが指摘され、それらを育むべき家庭や地域社会の教育力の低下が大きな課題となっています。・・」そして、施策の方向性として「深谷の子「６つの誓い」の活用や、規律ある態度の調査結果を踏まえ、地域の特色を生かした体験活動の充実を図ります。」としている。

深谷の子「６つの誓い」とは、夢とこころざしをもち、まごころと思いやりのある深谷の子として、以下のように説明されている。

（１）立志の精神（夢とこころざし）

ア　私は、夢に向かって努力します。

「夢は、人生を豊かにします。目標を立て、日々努力し、こころざしとしてかかげていきましょう。」

イ　私は毎日勉強します。

「真剣に授業にのぞみ学び合うなかで、学力は定着します。家庭でも計画を立てて、毎日の学習をしましょう。」

ウ　私は、たくさん挑戦、体験します。

「実際に身をもって学ぶことで、新しい発見ができます。今までやっていなかったことにも挑戦し、体験を広げていきましょう。」

（２）忠恕の心（まごころと思いやり）

ア　私は、すすんであいさつをします。

「あいさつは、社会生活の基本です。　『おはよう』『いってきます』
だれにでも、気持ちをこめて、笑顔で元気にあいさつをしましょう。」

イ　私は、ぬいだくつをそろえます。

「くつそろえは、気持ちを整えることにつながります。だれにでもどこでも自分のくつはもちろん周りのくつもそっとそろえてみましょう。」

ウ　私は、心のこもったことばをつかいます。

「『ありがとう』『どういたしまして』『ごめんなさい』『だいじょうぶですか』支え合い、助け合い、人への思いやりは、温かな言葉となって表れます。ことばを大切にしましょう。」

以上「６つの誓い」は深谷市教育委員会が平成２７年より推進しているものである。

６　子供を育てる取組の「３つの運動」と「６つの誓い」について

これまでみてきたように市民会議そして深谷市教育委員会では、子供たちの健やかな成長のために市民会議では「運動」教育委員会では「施策」を講じている。特に、深谷市教育委員会では、市民会議が進める「３つの運動」を「忠恕の心」という枠で継承し、「立志の精神」という枠組みを設け「６つの誓い」として進めている。これらは渋沢栄一翁の心を受け継ぐ教育の推進に取り組み、学校と家庭と地域が一体となって教育活動を進めようとしている現れであろう。

「６つの誓い」の推進については、深谷市教育委員会、市民会議、深谷市ＰＴＡ連合会が名を連ねている。

私たち社会教育委員子供グループでは、市民会議が推進する「３つの運動」そして深谷市教育委員会、市民会議、深谷市ＰＴＡ連合会が推進する「６つの誓い」の内の「忠恕の心」にある３つの誓いに注目した。深谷市教育委員会が説明しているように「忠恕の心」にある３つの誓いは、市民会議が推進する「３つの運動」を継承し子供たち自身が行っていって欲しいという願いを込めて「運動」ではなく「します。」という子供自身の自発的な行動目標としての言葉にしたと思われる。しかし、深谷市内で見かける掲示物の多くは深谷市子どもサポート市民会議が推進する「３つの運動」の標語であり、「６つの誓い」については、もっと広く地域社会や家庭教育に広げなければならないのではないだろうか。例えば、次のような話を聞いた。

ある家庭で、小学生の子供が玄関で靴を脱いだまま家の中に入りました。そのとき、その子のおじいさんが「『脱いだくつを揃える運動』を深谷市では行っているのだから、自分の脱いだくつは自分できちんと揃えないと駄目じゃないか。」と注意しました。すると、母親が「おじいちゃん、今は『私は、ぬいだくつをそろえます。』という『６つの誓い』ということで、子どもたちには教育しているのよ。」と、家庭の中でちょっとした行き違いが生まれました。

そして、深谷市教育委員会が中心となって推進している「６つの誓い」は小中学生対象となっているが、教育委員会は就学前の幼稚園児等もその対象となる。特に今回の幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の３歳児以上についてはその内容が統一され特に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は統一されたものが示されている。就学前の子供たちにとって社会性を身に付ける非常に重要な時期である。

さらに、平成２２年「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議」による「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」の「３．教育活動～学びの芽生えの時期から自覚的な学びの時期への円滑な移行～」では次のように述べられている。

「（１）学びの芽生えの時期から自覚的な学びの時期への円滑な移行

幼児期から児童期にかけては、学びの芽生えの時期から自覚的な学びの時期への円滑な移行をいかに図るかが重要となる。」

「学びの芽生え」とは、学ぶということを意識しているわけではないが、楽しいことや好きなことに集中することを通じて、様々なことを学んでいくことであり、幼児期における遊びの中での学びがこれに当たると考える。一方、「自覚的な学び」とは、学ぶということについての意識があり、集中する時間とそうでない時間（休憩時間等）の区別がつき、与えられた課題を自分の課題として受け止め、計画的に学習を進めることで

あり、小学校における各教科等の授業を通した学習がこれに当たる。

幼児期は、自覚的な学びへと至る前の段階の発達の時期であり、この時期の幼児には遊びにおける楽しさからくる意欲や遊びに熱中する集中心、遊びでの関わりの中での気付きが生まれてくる。こうした学びの芽生えが育っていき、それが小学校に入り、自覚的な学びへと成長していく。すなわち幼児期から児童期にかけての時期は、「学びの芽生えから次第に自覚的な学びへと発展していく時期である。」と「学びの芽生え」と「自覚的な学び」の連続性を強調している。

このような、重要な時期である就学前の子供たちの社会性の醸成にも「３つの運動」や「６つの誓い」はよい指針となっていると思われる。

７　おわりに

今回、子供グループでは「子供を守り、育てる」というテーマの内、特に子供を育てるという点に重点を絞った。その中でも、特に深谷市教育委員会が推進する「６つの誓い」と市民会議が推進する「３つの運動」に焦点を当てて考察してきた。双方共に深谷市の子供たちの健やかな成長を願い、将来の深谷市を担う人材の育成や個人として「生きる力」を身に付けるために必要とするという観点から推進していることが伺えた。しかし、「３つの運動」の「脱いだ靴を揃える運動」「あいさつ先手運動」「ことばを大切にしよう運動」と「６つの誓い」の「私は、すすんであいさつをします。」「私は、ぬいだくつをそろえます。」「私は、心のこもったことばをつかいます。」という推進する意味合いは同じようであるが、青少年健全育成深谷市民大会「こども学びスタｉｎ深谷」では平成３０年度は「３つの運動・標語コンクール」があり、令和元年度は「私の『深谷の子　６つの誓い』の発表があり、別に「３つの運動・標語コンクール」が設定されていた。同じ意味合いの推進であるのであれば同一の場面での発表や表彰が好ましいと考える。

また、前述したような幼児教育の視点も含め、就学前の乳幼児から１８歳に至る青年期の子供たちを範疇として、「３つの運動」と「６つの誓い」について統一性を持たせ深谷市の目指す子供の姿を深谷市民全員が共有し全市民をあげて取り組む機運を高めたいものである。

参考文献

１　埼玉県深谷市・深谷市教育委員会
平成３０年３月
『立志と忠恕の深谷教育プラン　第２期深谷市教育振興基本計画』

２　幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議
平成２２年１１月
『幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）』

Ⅲ　高齢者グループ

～高齢者を守り・高齢者が生きがいを感じられる取組について～

１　はじめに

我が国の人口は、平成３０年（２０１８年）１０月１日現在、１億２，６４４万人となっている。

現在、高齢者は前期高齢者（６５歳～７４歳）と後期高齢者（７５歳以上）に分けられているが、令和元年９月１５日現在、６５歳以上の人口は、３，５８８万人（男１，５６０万人、女２，０２８万人）総人口に占める割合（高齢化率）は、２８．４％となっている。また、平成３０年の我が国の平均寿命は、女性が８７．３２歳、男性が８１．２５歳で世界一である一方で出生率の低下による少子化のため、急速に高齢・長寿社会を迎えている。

人は、赤ちゃんとして生まれ、「幼少年期」「青年期」「成人期」を経て「高齢期」を迎えている。高齢期を生きる人々が、これまでの各期・ライフステージと同様に心の豊かさや充分な生きがいを持ちながら、暮らし続けられることが望まれる。

現代の高齢者は、寿命や健康寿命の伸長などにより地域社会の中で、生き生きと活動し、生きがいを感じ、充実した生活を送って居る人が少なくない。

これまでの社会では見られなかった高齢者の学びや活動の場が広がっている。

高齢者は、長年にわたって培った豊かな知識や技術・技能を持ち、これらを生かして、地域活動に参画・参加し、地域社会づくりに貢献することが大いに期待される。

一方、高齢者は、健康不安、経済不安、交通事故、自然災害、振込詐欺などの問題に直面する危険性が高く、これらに対応した生活や取組が欠かせない。

また、平成２７年の統計によると６５歳以上の一人暮らしの者は、男女とも増加傾向にあり、男性は約１９２万人で６５歳以上人口に占める割合は１３．３％、女性は約４００万人で２１．１％となっている。

高齢者が住み慣れた地域社会の中で、健康で、安心して暮らしていけるようにするためには、隣近所、自治会（町会）、地域コミュニティ、公民館などが高齢者を守り、支えていけるようネットワークを構築して行く必要がある。

そこで、高齢者グループでは、「地域社会の中で、高齢者をどのように守っていったら良いか、また高齢者に心の豊かさや生きがいの充足を感じてもらうための社会活動や学習活動はどのように進めていったら良いか。」に着目し、社会教育という面から取り組むことが出来る事柄について、調査・検討してみることとした。

２　深谷市における高齢者を取り巻く状況

（１）高齢者人口―６５歳以上

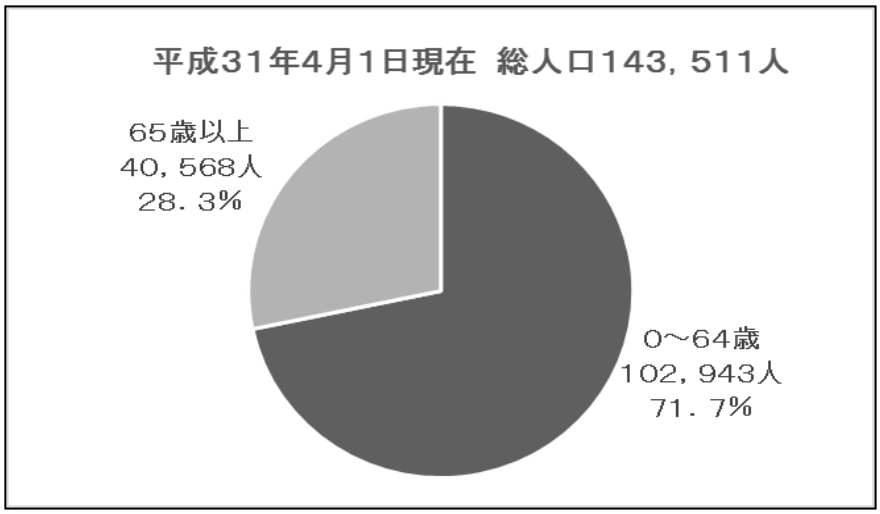
深谷市の高齢者人口は、下記のように増加傾向にある。

・平成２９年４月１日現在

総人口　１４４，４２５人　高齢者人口　３８，７６０人　高齢化率　２６．８％

・平成３１年４月１日現在

総人口　１４３，５１１人　高齢者人口　４０，５６８人　高齢化率　２８．３％



（２）地域活動への参加状況

平成２９年度調査（平成３０年度（２０１８年）策定の「深谷市高齢者福祉計画」）「参加していないが４０．０％」で最も多く、参加している項目の多い順に見ると、「自治会・町内会３６．７％」「祭り・行事２３．０％」「サークル・自主グループ１７．０％」「老人クラブ１０．９％」となっている。また、ボランティア活動への参加状況は、２７．９％となっている。

（３）老人クラブの組織と加入者数

令和元年度における深谷市の老人クラブ数は１０１で、会員数は４，７０４人（男―２，０８６人　女―２，６１８人）で加入率は低い状態といえる。

老人クラブは、平成２４年は１２９クラブ、平成２８年は１１２クラブと減少傾向にある。その原因としてリーダーの引き受け手がいないためと言われている。

老人クラブは、地域の高齢者の見守りのためにも欠かせない団体であり、今後活動の活発化や解散されたクラブの復活などの方策を講じる必要があると思われる。

（４）深谷市シルバー人材センターへの会員登録

平成３１年３月３１日現在 シルバー人材センターに登録されている方は、６０歳から８５歳以上の高齢者まで、男性７８２人、女性２８８人、合計１，０７０人となっている。平均年齢は、男性が７２歳、女性が７０．８歳である。

３　深谷市の公民館と高齢者対象事業

（１）深谷市の公民館

深谷市は１２の地区からなっており、その１２の地区にそれぞれ公民館があり、施設規模は、大小の会議室、調理室、美術工芸室、和室、児童室、図書室、多目的ホール、体育室などを備えており、他都市の公民館に比べて施設が充実しており、利用者にとって使いやすいように配慮されていると言える。

深谷市の公民館に登録している団体は、令和２年２月２７日時点で９８９団体である。その内高齢者が主体で構成されている団体は５０４団体であり、多くの高齢者が公民館活動に参加していることが伺える。

（２）高齢者を対象とした深谷市の社会教育事業

・「ふかや市民大学」

平成２２年度開設された事業で、参加者の大半は高齢者で単年度ごとに開設されている１年を通した学習講座となっている。

平成２２年度の１期生から令和元年度の１０期生までの受講生は７６８人。

この市民大学の１期の卒業生から９期迄の卒業生で組織されている「校友会」は５２３人の会員がいて、「ウォーキング」「パソコン」「うどん」「ソバ打ち」等の同好会に加入し、活動しており、全体活動として「グラウンドゴルフ大会」等を企画開催している。学んだ成果を生かし、交流を図っている。

これらの卒業生が地域のオピニオンリーダーとして、学んだ成果を活かして地域貢献活動に寄与されることが期待される。

（３）各公民館での高齢者対象事業

藤沢公民館を例にあげると

「スポーツ吹き矢を体験しよう」「パドル体操」「脳を刺激し、活性化♪シナプソロジー」「サツキ展、菊花展」等の高齢者向けの事業が展開されている。

他の１１公民館においても、高齢者を対象とした事業が実施されている。

（４）深谷市長寿福祉課の事業

高齢者、障害者、子育て中の市民などを対象とした「ふれあい・いきいきサロン」おもりを使った体操、とじこもりや介護予防、見守りや支え合い「通いの場」、認知症の方や家族支援「認知症カフェ」等。

今後、ますます元気な高齢者が増え活発な活動が予想される。誰でもが、健康でいきいきと暮らしていけるような地域社会つくりのためには、社会教育事業と高齢者福祉事業のより一層の連携・協力が重要と思われる。

４　行政と市民（高齢者）との協働で取り組んでいる活動

行政と市民との協働で活動しているものに、「緑の王国」がある。

緑の王国は、「市民がつくり　市民が育てる　市民の森」を合言葉に平成２０年（２００８年）６月に開国され、以来「緑の王国ボランティア」が主役となって、様々な活動を続けている。

ボランティアの登録者数は、令和元年現在９６人。年齢層は主に５０歳代から８０歳代で、毎週木・金曜日の午前中に定例的な活動を行っている。

活動の内容は、１４のガーデンの造成と管理、イベント（森の音楽祭、梅まつり、秋祭り等）の開催、子どもの成長を育む「王国自然クラブ」の協力、市内児童を対象とした「自然観察会」の開催などである。平成元年における延べ活動者人数は２，５６２人。

これらの活動が評価され、平成２８年に「環境大臣賞」の表彰を受けている。

ボランティア活動をしている理由は、①余暇を有意義にすごしたい、②社会のために役立ちたい、③社会と関わりたい、④面白そう、楽しそうだから、⑤自分の能力、経験を生かしたい、⑥自然があり、自然に親しみたいなどであった。

今後の課題を伺うと、①年齢を重ね、身体の衰えがある、②健康・家族の問題で活動出来にくくなっている、③若い人が入ってこない、④家族に自動車の運転を止められた、などが聞かれた。

今後の充実した活動に向けては、を伺うと、①後継者の育成、②研修・学習機会の充実、③交通手段の確保などがあげられた。

５　高齢者の生きがい

深谷市が「深谷市高齢者福祉計画」の策定（平成３０年３月）にあたり実施した市民アンケート調査によると、生きがいを感じることとして「友人や気のあった仲間とのつきあい」が最も多く、次いで「趣味の活動―旅行やドライブなど」となっており、その他、次のことがあげられている。

・健康づくり、体力づくり
・家族や孫と過ごすこと（団らん）
・働くこと
・学習や教養を高めるための活動、スポーツ
・地域活動、社会奉仕活動など

以上のことから高齢者が、地域の人々と、出会い、交流し、学び合い、地域社会への貢献を行うことで、喜びや生きがいを感じていることが伺える。

６　高齢者にとっての生きがいを高めるために

今後ますます、高齢化が進む中、地域社会が高齢者をどのように守っていったら良いか、また、高齢者がいきいきと暮らし続けられるために、地域社会がどのように支援を行ったら良いかについて、次の点を提案する。

（１）より身近な場所での高齢者の学びと交流

・最も身近な施設である集会所や自治会館などを利用し、交流し、活動する。
・地域の活動を紹介する情報誌の発行を行う。
・移動手段を持たない高齢者のために、公民館が地域に出向いて行く「出張（出前）講座」を開設する。

（２）高齢者の生きがいを育む社会参加活動

・高齢者の「地域デビュー」を応援するため、身近な学びや活動の場である老人会活動や公民館活動などを紹介する。
・豊かな知識、技能を持つ高齢者の力を生かす場、機会をつくる。（指導者、ボランティア活動、自治会活動）
・高齢者の課題に合った学習講座を開設する。（例:健康・体操講座、ハイキング、ガーデニング講座、資産講座、交通安全講座等）
・社会の変化に対応した知識や技術を取得する機会を提供する（スマホ活用講座）

（３）高齢者の見守りと支え合いの活動

・高齢世代と他の世代との交流事業を促進し、相互扶助の意識を醸成する。
・諸活動を通して、高齢者同士の支え合いのネットワーク作りを進め、広げる。
・高齢者を支えるための支援者ネットワークを進め、広げる。

７　おわりに

本グループでは、「高齢者に生きがいの充足を感じてもらうための学習活動は、どのように進めていったら良いか」と題して調査・協議を重ねてきた。

そこで明らかになったことは、第１に、年齢にとらわれることなく、生き生きと地域社会の中で活動する高齢者が増加している。第２に、高齢者がスポーツ・レクリエーション活動、文化芸術活動、コミュニティ活動等を通して「生きがい」や「充実感」を感じている。第３に、高齢者がこれまで培った知識や技術を生かして社会（貢献）活動を活発に行っている、ことなどがあげられた。

そして、いくつかの課題も見えてきた。第１点として、高齢者をこれまでの配慮や支援が必要な弱者として見る立場から、学びや人々との交流を通して生き生きと活動する高齢者像への転換。第２点として、高齢者の健康と元気を維持・増進するための社会教育事業の拡充。第３点として、人生１００年時代に対応した社会教育・生涯学習のあり方。第４点として、交通手段を持たない高齢者が今後ますます増えてくることが予想される。高齢者が自宅から歩いて行ける場所としての自治会館や集会所等で、活動や交流が出来るよう、公民館と自治会が連携して学びの場や機会を提供すること。

今後、以上の課題を検討することがますます重要と思われる。

参考文献

１　埼玉県深谷市　平成３０年　『深谷市高齢者福祉計画』

Ⅳ　おわりに

「はじめに」で述べたように、深谷市（以下「本市」）社会教育委員会議は、平成２１年８月に「深谷市の社会教育の発展に向けて」のテーマの下、初めて本市教育委員会に提言書を提出した。以降、平成３０年まで５つの提言書（資料１「深谷市社会教育委員会議によるこれまでの提言等」を参照）を作成し、本市社会教育の発展に寄与してきた。今期の本市社会教育委員会議は、自発的に「動く社会教育委員」の共通認識の下、深谷市における近年の社会教育の現状と喫緊の課題について５回の議論を重ねた結果、「深谷市における地域が住民を守り・育てる取組について」をテーマに決め、調査・研究を行ってきた。

調査・研究については、「子供グループ」では、子供を守る観点と子供を育てる観点から、それぞれ「登下校の安心安全への取組」、「３つの運動」及び「６つの誓い」についてその現状と課題並びに方策について改めて考察し、まとめ、提言した。郷土の偉人、渋沢栄一翁の教えに基づいた取組として、今後も学校・家庭と地域社会が十分な連携をし、地域の子供を守り・育てる取組を進めていきたいと考える。

「高齢者グループ」では、高齢者を取り巻く状況で、高齢者人口、地域活動への参加状況などを基に、幅広い調査・研究を行った。高齢者の生きがいを高めるための取組は、我が国における極めて大きな課題であり、示唆に富んだ提言になったと考える。

新型コロナウイルスの感染拡大は、この約半年間、世界中を震撼させ、さまざまな影響を与えてきた。感染防止対策を徹底する結果、人々に働き方の変化を生み出し、「新しい生活様式」が生まれつつある。このことは、地域コミュニティにも変化を生み出すと考えられよう。今後の社会教育は新たな課題を課せられていると言える。

むすびに、今期における深谷市社会教育委員会議の活動は、極めて重要な最後の３回の会議が中止されるなどの影響を受けたが、深谷市教育委員会生涯学習スポーツ振興課の皆様のご指導により、なんとか提言書作成にたどり着けた。心から感謝申し上げ、まとめとしたい。

令和２年６月２９日（月）

参　考　資　料

資料１　深谷市社会教育委員会議によるこれまでの提言等

１　平成１９年３月意見交換「これからの生涯学習・社会教育の推進に向けて」
２　平成２１年８月提言「深谷市の社会教育の発展に向けて」
３　平成２４年５月提言「深谷市の公民館のあり方について」
４　平成２６年６月提言「深谷市における家庭教育支援のあり方」
５　平成２８年６月提言「深谷市における地域の教育力の向上について」
６　平成３０年６月提言「深谷市における社会教育の一層の発展を目指して」

資料２　深谷市社会教育委員名簿

任期　平成３０年７月１日～令和２年６月３０日

	氏　名	選出団体・機関	備　考
1	河田　耕一	花園公民館	議　長
2	野澤　優	川本公民館	副議長
3	渋谷　肇彦 斉藤　実	小学校校長代表（榛沢小学校） 小学校校長代表（桜ケ丘小学校）	子供グループ
4	矢島　久 飯田　明	中学校校長代表（南中学校） 中学校校長代表（明戸中学校）	子供グループ
5	大井　隆平 室田　真巨	ＰＴＡ連合会代表（上柴東小学校） ＰＴＡ連合会代表（上柴中学校）	子供グループ
6	後藤　高明	子どもサポート市民会議代表	高齢者グループ
7	吉澤　正則	人権教育推進協議会代表	高齢者グループ
8	関口　良子	生涯学習スポーツ振興課	子供グループ副代表
9	岡　久美子	生涯学習スポーツ振興課	高齢者グループ
１０	根岸　雅子	深谷公民館	高齢者グループ
１１	鎌田　義夫	藤沢公民館	高齢者グループ副代表
１２	林　功	幡羅公民館	高齢者グループ
１３	飯塚　冨美男	明戸公民館	子供グループ
１４	荻野　勝正	大寄公民館	子供グループ
１５	髙野　誠一	八基公民館	高齢者グループ
１６	八巻　紀男	豊里公民館	子供グループ
１７	柴﨑　常一	上柴公民館	子供グループ
１８	柏村　行男	南公民館	高齢者グループ代表
１９	石河　信雅	岡部公民館	子供グループ代表

資料３　深谷市社会教育委員会議　活動記録

日　付	場　所	内　　容
平成３０年 ７月　２日（月）	教育庁舎	第１回深谷市社会教育委員会議・委嘱式
１０月２５日（木）	川本公民館	平成３０年度北部地区社会教育関係委員・職員研修会 演題：「社会教育によるネットワークの充実」 講師：埼玉県教育局市町村支援部生涯学習推進課 主席社会教育主事　八木原　利幸　氏
１０月３０日（火）	深谷公民館	第２回深谷市社会教育委員会議
１１月１５日（木） ～１６日（金）	長野県県民 文化会館	第４９回関東甲信越静社会教育研究大会　長野大会 （※議長参加）
１１月２７日（火）	妻沼中央公民館 （熊谷市）	平成３０年度第３２回大里地区公民館研究集会 演題：講談の歴史及び熊谷次郎直実「敦盛最期」 講師：田辺　一乃　氏
１１月２９日（木）	深谷公民館	第３回深谷市社会教育委員会議
平成３１年 １月２３日（水）	教育庁舎	第４回深谷市社会教育委員会議
２月　７日（木）	群馬県太田市	平成３０年度大里地区社会教育委員連絡協議会 視察研修
３月１４日（木）	深谷公民館	第５回深谷市社会教育委員会議
令和元年 ５月１６日（木）	妻沼中央公民館 （熊谷市）	平成３１年度大里地区社会教育委員連絡協議会定期総会・記念講演 演題：「これからの公民館を考える」 講師：川口市生涯学習課社会指導主事 市川　重彦　氏
５月２２日（水）	教育庁舎	第６回深谷市社会教育委員会議
５月２７日（月）	国立女性 教育会館 （嵐山町）	令和元年度埼玉県市町村社会教育委員連絡協議会総会・研修会 演題：「地域に根ざした社会貢献活動の実践 ～心を豊かにするおもてなし～」 講師：石坂産業株式会社　代表取締役 石坂　典子　氏
６月２７日（木）	深谷公民館	第７回深谷市社会教育委員会議・委嘱式

７月２９日（月）	深谷公民館	第８回深谷市社会教育委員会議
９月１２日（木）	深谷公民館	第９回深谷市社会教育委員会議
１０月２５日（金）	小鹿野文化センター（小鹿野町）	令和元年度北部地区社会教育関係委員・職員基礎研修会 演題：「人材発掘、養成、フォローアップの在り方」 講師：埼玉県教育局市町村支援部生涯学習推進課 主席社会教育主事　内河　大和
１０月２８日（月）	深谷公民館	第１０回深谷市社会教育委員会議
１１月　７日（木） ～８日（金）	ウェスタ川越（川越市）	第５０回関東甲信越静社会教育研究大会　埼玉大会
１１月２６日（火）	大寄公民館	令和元年度第３３回大里地区公民館研究集会 演題：「現代に生きる渋沢栄一」 講師：渋沢史料館長　井上　潤　氏
１１月２８日（木）	深谷公民館	第１１回深谷市社会教育委員会議
令和２年 １月２３日（木）	深谷公民館	第１２回深谷市社会教育委員会議
２月２７日（木）	深谷公民館	第１３回深谷市社会教育委員会議
６月２９日（月）	教育庁舎	第１４回深谷市社会教育委員会議